

神奈川の博物館紹介

## 北里大学 薬学部附属薬用植物園

北里大学は、学祖・北里柴三郎博士の顕現した精神（開拓・報恩・叡智と実践・不撓不屈）に則り「いのちを尊び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する」を理念としています。北里大学薬学部附属薬用植物園は、本理念を通じて、学生や市民への薬用植物の普及啓発、漢方薬の原料である生薬の国産化につながる栽培研究と品質評価を進めています。

### 1. 薬用植物園の沿革

本薬用植物園の歴史は、1965年7月の福島県二本松市の大学実習所内での開設に遡り、54年の歴史を持つことになります。当時はキハダの苗の植栽や薬用ダイオウの定植などが行われ、生育したキハダの樹皮は毎年採取され、生薬黄柏として生薬学実習の教材に供されたと聞いています。1972年、現在でも重要な薬用植物のひとつであるミシマサイコがかつて自生していたこの相模原の地に、大学附属施設としてキャンパス内での再スタートを切りました。

### 2. エリアの紹介

薬用植物園には学生や市民にご覧いただける標本園と薬学研究に資する研究圃場があります。標本園は植物の役割や形態ごとにいくつかの展示エリアに分けられており、薬用木本区、薬用果樹区及び薬用草本区では日本薬局方に収載されている生薬の基原植物を中心に、園全体の景観や季節に合わせて薬用植物の色、形、香りを体験できるよう工夫して展示しています。ドーム温室は当園の中心的な存在で、そのドーム内には十分な太陽光が取り入れられ、温度や灌水の環境制御を行いながら熱帯・亜熱帯の薬用植物園を展示しています。研究圃場では、薬用ボタンや生薬の基原植物であるオケラ類やキク、ジャノヒゲなどを系統保存し、生薬の国産化に寄与するための栽培研究を進めています。



### 3. 薬用植物園の機能と役割

薬学における薬用植物園の役割には、①薬学教育への寄与、②研究への寄与、③地域貢献があります。①では、薬学の歴史の原点としての薬用植物を生きた教育材料として学生に提供しています。②では、良質な生薬を生産・供給するために薬用植物を生息域外保全、栽培法の検討とともに、本学薬学部生薬学教室や東洋医学総合研究所と協働して最新の遺伝子型解析法、NMR メタボローム解析法などを導入して生薬の品質向上を推進しています。③では、相模原市との「新都市農業推進協定」に基づき、相模原市民向けに「薬用植物栽培・加工体験講座」の実施や薬用植物シンポジウムなどを開催して、広く市民に開かれた施設を目指しています。

### 4. ご利用案内

開園日 大学の休日を除く毎日  
 開園時間 9:00～17:00  
 ドーム温室は日祝日閉館  
 入園料 無料  
 問合せ先 042-778-9307, 9308  
 交通 小田急相模大野、相模原、相武台前、JR 相模原、古淵、原当麻各駅から北里大学病院・北里大学行き神奈川中央交通バス

